

事業報告書

1. 事業名

遺伝子組換え実験安全研修会

2. 事業目的

文部科学省の方針に基づき、各機関のより良い遺伝子組換え実験安全管理体制構築に関する情報提供・情報交換および討論を行う。

3. 開催期間

平成29年7月29日（土）10時00分～16時00分

4. 開催場所

一橋大学一橋講堂 中会議場1～4

5. 主催

全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会 主催

国立大学法人中国地方バイオネットワーク連絡会議 共催

6. 後援

文部科学省

7. 参加機関

国立大学法人 39校、私立大学 28校、

国立研究開発法人・大学共同利用機関・公益財団法人 12機関、

民間研究所等 25組織

合計104機関 参加者合計177名

8. 事業概要

プログラムに従って、午前中は開催の挨拶の後、教育訓練及び審査体制についての情報提供が行われ、会場の参加者からの質問及び討論が行われた。

午後は、文部科学省研究振興局ライフサイエンス課生命倫理・安全対策室 中西健介専門職によるカルタヘナ法の説明が行われた。引き続き、国立遺伝学研究所 鈴木睦昭室長による名古屋議定書の説明が行われた。続いて、ゲノム編集の最近の話題として3名の講演者による情報提供が行われ、質疑応答や意見交換が活発に行われた。

参加者へのアンケート調査を行った結果、有用な情報が得られ、大変有意義だったとのことであった。今後もこのような機会があれば積極的に参加したいとの意見が多数寄せられた。

参考資料

- ① 当該安全研修会のポスター
- ② 当日スナップ写真

遺伝子組換え実験の 安全管理体制 を吟味する

プログラム

午前の部 (10:00～12:00)

- はじめに
- 遺伝子組換え実験の安全管理
教育訓練について
進行：三浦 竜一 (東京大学)
- 審査のあり方について
進行：古識 肇 (理化学研究所)

午後の部 (13:00～16:00)

- カルタヘナ法について
文部科学省 研究振興局 ライフサイエンス課 生命倫理・安全対策室
- 生物多様性条約 名古屋議定書 締結 大学はどう対応すべきか？
鈴木 陸昭 (情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 知財室)
- ゲノム編集の最近の話題
水産分野での国内外での活用の状況
木下 政人 (京都大学 農学研究科応用生物科学専攻 海洋生物機能学分野)
- 農業 (作物) 分野における研究開発と規制に関する国内外の状況
田部井 豊 (農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門 遺伝子利用基盤研究領域)
- 病原体媒介蚊におけるゲノム編集研究の状況 - 遺伝子解析からGene Drive技術まで -
山本 大介 (自治医科大学 感染・免疫学講座 医動物学部門)
- おわりに

申込方法： 大学遺伝子協 のウェブサイトから
お申し込み下さい



参加申込締切：2017年7月14日 (金)

参加費：2,000円 (資料代)

第9回 遺伝子組換え実験安全研修会

この安全研修会は、遺伝子組換え実験の安全管理に関係する方であればどなたでも参加出来ます

日時：2017年7月29日 (土) 10時～16時

場所：一橋大学一橋講堂 中会議場1～4

(東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター内)

主催：全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会
共催：国立大学法人中国地方バイオネットワーク連絡会議
後援：文部科学省

お問合せ先
全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会 事務局
(鳥取大学生命機能研究支援センター 遺伝子探索分野内)
TEL:0859-38-6472 FAX:0859-38-6470
E-mail: aapgs@knd.biglobe.ne.jp

研修会当日のスナップ写真



受付



午前の講演



午前の講演



午前の講演



午後の講演



午後の講演